

工夫庵のおぼろ染



今回は弊社の「おぼろ染」シリーズの生地と柄についてご紹介致します。おぼろ染シリーズは綿100%、「変わり織り」という名前の厚みのある生地を使用しています。「おぼろ染」はその名の通り、ほんやりと霞んだ感じの斑(むら)のような自然な風合いが特徴で、生地凹凸を利用して斑を表現しています。

無地は全部で12色、柄は13柄(色違いも含めると22種類)を展開し、豊富な色柄の中から、お好みの一品をお選び頂けます。

ここでは柄おぼろの文様についてご紹介致します。

“変わり織り生地”とは

通常の平織りと比べて、糸使いや組織などを変えることにより、外見や風合いを変えた織物のことを総称して言います。主としてドビー織で織り上げた織物のことを指して言います。

※ 変わり織りとは文字通り定番の織り方でない物を指し、一つの織物の種類を言うわけではありません。



“柄おぼろ”の代表的な文様

観世水(かんぜみず・かんぜすい)

渦を卷いた水の文様。能楽の観世大夫が定紋としたのが名前の由来です。観世家の井戸の水面が常に動いて波紋をつくっていたことからこの文様が出来たと伝えられています。その流水模様は「止まることのない未来永劫」を表し、水そのものも、厄災を除いたり穢れ(けがれ)を洗い流す「浄め」の意味を持つというところから、吉祥模様として捉えられています。



観世水

亀甲(きっこう)

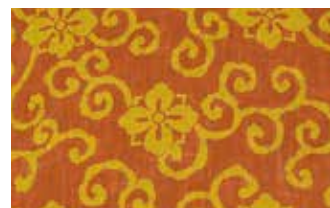
六角形の亀甲文様はその名の通り亀の甲羅の形に由来するものです。元々のルーツは西アジアに起こり、中国や朝鮮から日本に伝わったとされます。有識文様(公家階級の服装・調度・輿車などに用いられた伝統的文様)で、おめでたい文様の代表格でもあります。亀甲の中に花や動物、文字などを入れた様々なバリエーションもあります。



亀甲

花菱唐草(はなびしからくさ)

日本の家紋でもある花菱と唐草を組み合わせた古典的な植物文様。花菱は菱の葉に似た文様の弁を4つ並べて花びらに見立てた大陸由来の連続文様で、平安時代からの有識文様です。唐草は、蔓(つる)をモチーフに複数の曲線や渦巻き模様を組み合わせた模様で、蔓の生命力にちなんで、繁栄を願う吉祥文様として、古くからあらゆる装飾に多く使われています。



花菱唐草

傘松(かさまつ)

からかさ(紙と竹で作った和風の雨傘)を広げたような枝振りの松の文様。松は四季を通じて緑を絶やさなことから、その変わらない緑は清浄さ、節操の象徴とされました。また樹齢千年ともいわれる松は「延命長寿」の象徴でもあります。若松は神の木としてお正月の門松にも飾られ、神が舞い降りて幸運を呼ぶとも言われています。



傘松

今回ご紹介した柄おぼろは、日本の伝統的な文化や風習を大切にしたい気持ちが込められた、おめでたい吉祥文様です。座布団は勿論、ベンチや椅子の張地、また壁面パネルの張地としてもお使い頂けます。飲食店やホテル・旅館等々、商売繁盛のお手伝いが出来れば幸いです。